

National Clinical Database (NCD)における臓器がん登録

高橋 新

(慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室)

日本には各学会が主導する様々な臨床データベースが存在する中で、患者の視点に基づいた良質な専門医制度を根拠に基づいて確立するため多くの臨床学会が連携して National Clinical Database (NCD) が 2010 年 4 月に設立され 2011 年 1 月より症例登録が開始された。NCD では共通調査票に基づいた体系的なデータ収集を行っており 2019 年 9 月時点では約 5,000 施設が参加し、1,000 万以上の症例情報が集積している。NCD は外科手術の 95%以上をカバーする悉皆性の高い臨床データベースとなっており、専門医制度と連携した臨床データベースとしては世界最大規模である。集められたデータは、医療の質向上を目的として活用され、これまでに様々なエビデンスが研究報告されている。エビデンスの創出にはデータの質担保も重要であるが、NCD では施設訪問などを通して原資料との照合を行い登録データの質担保を続けている。

NCD 上で行う臓器がん登録については、2019 年 4 月時点で乳癌登録、膵癌登録、肝癌登録、胃癌登録、前立腺癌登録、腎癌登録、食道癌登録、遺伝性乳癌卵巣癌症候群、高額医薬品登録（肺癌）が学会等を中心に癌の診断や治療法などの方針を確立することを目的に実施されている。この他に、臓器がん登録とは別に手術ベースでみると各がんに対する様々な治療情報が収集されていることとなる。臓器がん登録は、悉皆性（カバー率）や登録項目数、対象施設といった面で国が進める全国がん登録や院内がん登録とは異なるものである。NCD 上で臓器がん登録を行うメリットとして、症例登録システムを通して既に多くの施設とのネットワークが構築されている点や、WEB ベースでの症例登録システムを活用することで各種変更対応などが迅速に行える点、外科症例情報との連携によって効率的な情報収集が可能といった点があげられる。また、システム構築の段階で領域の担当者がデータベースの構築に関与することで、入力のし易さを考慮したシステム構築が可能となっている。

本シンポジウムでは、NCD および NCD 上で行われている臓器がん登録の現状について説明する。

御経歴

令和元年 10 月 30 日現在

高橋 新 (たかはし あらた)



都内の急性期病院にて診療情報管理士として約 10 年勤務し、カルテ、レセプト (DPC) 、がん登録データなど医療情報の適切な管理および医療職による活用を推進。

(この間、社会人入学により修士 (診療情報管理学) 取得)

2014 年：東京大学大学院医学系研究科 医療品質評価学講座 特任研究員

2016 年：慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 助教

兼 東京大学大学院医学系研究科 医療品質評価学講座 客員研究員

NPO 法人 日本医師事務作業補助研究会 調査部アドバイザー

2018 年：慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 博士課程 (公衆衛生学) 入学
(社会人入学)

委員

日本消化器外科学会 NCD データ品質管理小委員会

日本臨床疫学会 データベース活用委員会

日本医師事務作業補助研究会 調査部アドバイザー

所属学会等

日本臨床疫学会

日本診療情報管理学会

日本公衆衛生学会

日本医師事務作業補助研究会